

三重県内の地域おこし協力隊活動事例(令和5年度)

～令和5年度に三重県内で活動した隊員の活動事例をご紹介します～

目次

(隊員の活動分野)

P2～

移住・定住促進

P8～

観光・情報発信

P14～

農林水産業

P18～

地域の産業

(隊員の活動分野)

P21

自然・環境保全

P22

スポーツ

P23

医療・福祉

※記載の情報は取材時点のものです

隊員情報



【隊員ミッション】

- ・地域交流イベントの開催
- ・SNSを活用した地域の情報発信による交流人口の増加
- ・空き家を活用した移住促進

【活動期間】

R5.4～ R8.3
(取材時:1年目)

活動内容

● SNS等を通じた地域情報の発信

YouTube、Instagram、HP、X(旧Twitter)、TikTokなどを活用し、有りのままの博要地域の魅力を発信しており、地元出身者にも地域を見直すきっかけにしてほしいと思っています。

● 交流人口増加に向けた地域交流イベントの企画

恒例となっているホテル祭りや納涼夏祭り、秋祭りでの神輿かつぎ手を広く募集して交流人口増やすほか、体験できるメニューを今後考案していきます。

● 空き家を利活用した宿泊体験施設の整備・運営

古民家1棟を民泊として開業できる準備ができ、移住希望者だけでなく、地域の方にも親戚の帰省時やイベント時など多様な利用をしてもらいたいと考えています。



協力隊になったきっかけ

伊賀市の元協力隊を通じて博要地域を訪れた際、特段何もない有りのままの「なんかちょうどee(いい)田舎」が気に入り、何か新しいものを創り出せる土壤があるという魅力を感じ、応募しました。

隊員が紹介する
地域の魅力・おすすめスポット

● 博要地域に住んでいる人びとや日常の田舎暮らしそのもの

住民は生きていくうえで必要な知恵や技を持っており、互いに助け合っています。

地域にお店はないですが、少し行けばスーパーなど必要なものは揃っており、暮らしの不便さがないことも魅力です。



今後の抱負・目標

地域の方が当たり前だと思う魅力や価値を見出し、この地域ならではのイベントや体験の企画・商品化などを具現化したいと考えています。今後利用できる古民家も増やして、移住希望者へのサポートを進めるほか、30～40歳代の地元出身者とのつながりも深めていきたいと考えています。

隊員情報



【隊員ミッション】

定住移住促進・空き家対策を伴うワンストップ窓口の設置・運営

【活動期間】

R4.7～ R7.6
(取材時:2年目)

協力隊になったきっかけ

尾鷲市で「移住・定住、空き家バンク運用」ミッションの協力隊を3年間務めた後、明和町で尾鷲の時と同じミッションでの募集があり、誘っていただけただけのことから応募しました。

このような事例が卒業後に定住する一つのモデルケースになればと思い、2回目の協力隊として活動しています。

隊員が紹介する 地域の魅力・おすすめスポット

● 暮らしやすい環境

1年を通して気候が良く、空が広い、日照時間が長い。子育て世帯が多い町です。中秋の名月の日に開催される「観月祭」には、夜でも子ども達のはしゃいで走り回る姿をみて、治安の良い町だと感じています。



活動内容

● 移住促進の取り組み

明和町が伊勢志摩定住自立圏の一部であることから「伊勢志摩エリア」として、圏内の他市町と合同で移住促進の活動をしています。移住促進のイベントにおいて、相談対応等を担っています。

明和町としても「住まい」「仕事」で他部署と連携して、情報発信や移住促進に繋げる活動をしています。



● 空き家の活用

空き家バンクのさらなる活用のため、ホームページを一新しました。また、空き家の調査や現状把握を行い、空き家相談で利用者のミスマッチを防ぐ活動もしています。自身も町内に空き家を購入し、退任後の活動に向けてリノベーションを進めています。

今後の抱負・目標

今まで培ってきた、移住・空き家・協力隊に関係する知識・技術をこれからの協力隊に関わる方々に提供していきたいと考えています。

経験者として協力隊や行政担当者をサポートできる存在になりたいと思っています。



隊員情報



【隊員ミッション】

- ・空き家の調査・利活用
- ・移住の促進

【活動期間】

R5.4～ R8.3
(取材時:1年目)

活動内容

● 空き家の調査

町内の空き家について、役場で把握するデータの更新も兼ねて調査を進めており、令和5年度内の調査終了を目指しているところです。

地域における空き家対策に関する情報を周知するため、最も効果のある町広報誌での広報や固定資産税納付書への資料の同封を実施しています。随時、空き家に関する相談を受け付けています。



協力隊になったきっかけ

企業に約20年勤め、環境を変えたいと思っていた折、京都府へ移住し喫茶店を開業した姉から協力隊の話聞き、関心を持った。

協力隊について調べていたところ、度会町協力隊の希望者向け移住体験会の開催を知り、参加したところ、自然豊かで地域の人が温かい度会町と協力隊のミッションに惹かれ、応募しました。

隊員が紹介する 地域の魅力・おすすめスポット

● 宮川の風景

度会町の鮎川大橋から眺める景色。昔から変わらない風景であろうと感じつつ、一期一会の風景とも感じるいつまでも眺めていられる場所。



● 空き家利活用、リノベーションスキル向上

近隣町の協力隊の空き家利活用現場に参加し、改修スキル勉強をしています。

そのスキルを度会町にも活かしていけるよう活動中。

この度、空き家を購入し、移住体験住宅なども視野にいれて少しずつ改修に取り組んでいます。まずは拠点として使用中。



今後の抱負・目標

空き家バンクへの登録は思ったよりハードルが高いですが、引き続き新規登録に向けて進めていきたいと思っています。その中で、条件の良い物件が見つければ、自身でも賃貸住宅や宿泊施設などに活用し、業としていきたいと考えています。

隊員情報



【隊員ミッション】

移住の促進

【活動期間】

R5.4～ R8.3
(取材時:1年目)

協力隊になったきっかけ

海外での仕事の経験やフランス語通訳案内士の資格もあったことから、外国人向けの長期滞在型宿泊施設の経営の実現を目指していたところ、友人から協力隊の話聞き、興味を持ちました。

その後、度会町協力隊の希望者向け移住体験会の開催を知って参加したことで、協力隊になることを決意しました。

隊員が紹介する 地域の魅力・おすすめスポット

● 宮リバー度会パーク(度会町棚橋)

自然をすぐそばで感じることができる、すばらしい公園です。広大な園内には、プールやイベントを開催できるステージ付きの芝生広場、子ども向け遊具、テニスコート等の設備も充実しています。



活動内容

● 協力隊カフェの運営

活動拠点の度会町ふるさと歴史館(旧小川郷小学校)と町内の公共施設において、月2回木曜日を基本に協力隊カフェを開いています。地域の保育園児や住民、他の市町から訪れた人との交流の場となっています。



● イベントにおける町のPR

町内外のイベントに参加し、町をPRしています。令和5年8～9月に多気町のVISONと連携した度会町フェアでは、開催に向けて、出店する事業者さんとの調整を行うとともに、イベントでのPRを担当しました。

令和6年5月には、町内の公園で、地域住民の交流の場、地域生産者・事業者のPRを目的に、マルシェを企画・運営します。



● 移住相談会での相談対応

県内外で開催される移住相談会へ参加し、相談対応にあたっています。



今後の抱負・目標

個人で起業を予定しており、町内で空き家を活用した長期滞在・体験型の宿泊施設を経営し、料理を提供をしたいと考えています。また、その施設を地域住民が集う場所としても活用したいと思っています。

町内外で開催されるマルシェへの参加や店舗等をお借りして、料理の提供を試行したいと考えています。

隊員情報



【隊員ミッション】

空き家の利活用・移住
定住の促進

【活動期間】

R5.7～ R8.6
(取材時:1年目)

協力隊になったきっかけ

「自然豊かな土地で過ごしながらかできる仕事」を探している中で、登録していた移住マッチングサービスを通じて、紀宝町の地域おこし協力隊について知りました。姉が和歌山県北山村に住んでおり、紀宝町に馴染みがあったことや隊員ミッションに興味を持ったことから応募させていただきました。

隊員が紹介する

地域の魅力・おすすめスポット

● 道の駅 紀宝町ウミガメ公園(紀宝町井田)

「道の駅 紀宝町ウミガメ公園」は、全国で唯一のウミガメの水族館がある道の駅であり、本物のウミガメが泳ぐ姿をプールの上からも水中窓からも観察することができます。ウミガメの泳ぐ姿はとても癒し効果があり、リフレッシュできます！



活動内容

●空き家調査

民間のアプリを活用し、空き家をA～Dの4段階のランクに分類して、空き家の実態を把握。また、空き家バンクへの登録も実施。

地域の方は空き家情報を提供くださったたり、聞き取り調査に協力的ですので、活動を円滑に行えています。



● 空き家の相談窓口

空き家の利活用を促すために、空き家の所有者や物件を探している方が相談できる窓口を催事で展開。空き家の相談窓口を設置することで、入居希望者とのマッチング率の向上や、移住への安心感にもつながると考えています。



今後の抱負・目標

今後、空き家の不要になった家具道具をお譲りいただき、観光施設やカフェで活用するなど、空き家の家具の有効活用に取り組んでいきたいと考えています。集客見込みのある施設に置くことで、温もりのある空間になり、滞在時間をより豊かなものにし、観光客等がまた来たいと思うような紀宝町にしたいです。

また、今後の空き家調査を行っていく関係者の方向けに空き家調査のマニュアル化にも取り組んでいきたいです。

隊員情報



【隊員ミッション】

空き家の利活用・移住
定住の促進

【活動期間】

R5.8～ R8.7
(取材時:1年目)

協力隊になったきっかけ

東京での今後の生活に疑問を覚え、環境を変えたいと感じ、仕事を探している中で、雑誌で紀宝町の地域おこし協力隊について知りました。新宮市出身で、この地域の雰囲気が好きで、以前から将来的には戻りたいという気持ちがあったことや、ミッション(空き家の利活用・移住定住の促進)に興味をもったことから応募させていただきました。

隊員が紹介する 地域の魅力・おすすめスポット

● 熊野大橋と紀宝町

橋を渡って新宮市から見る山と海と川が一望できる紀宝町の夕焼けはとてもきれいです。この写真は母校の小学校が閉校して造られた施設から撮った写真であり、昔を思い出し懐かしい気持ちになります。



活動内容

● 空き家調査(空き家バンク登録含む)

民間のアプリを活用し、空き家の状態を確認し、状態に応じてA～Dの4段階のランクに分類して、空き家の実態を把握。また、空き家バンクへの登録も実施。

地域の方は空き家情報を提供くださったり、聞き取り調査に協力的ですので、活動を円滑に行えています。



● 空き家の相談窓口(今後予定)

空き家に住んでもらうために、入居希望者が相談できる相談窓口を設置予定。空き家の相談窓口を設置することで、入居希望者とのマッチング率の向上や、移住への安心感にもつながると考えています。



今後の抱負・目標

隊員ミッションを進めるにあたり、紀宝町の知名度の低さが課題だと感じています。まずは紀宝町の知名度を上げて、移住先の候補に入れてもらう、候補に入ったら空き家を探すという順番になるよう、協力隊のメインの仕事と並行して町のPR活動もしていきたいです。

その一環として、紀宝町内に誰でも利用できるコワーキングスペースを作り、関係人口を創出する活動を行いたいです。コワーキングスペースが、働きながら紀宝町を知ってもらうきっかけになるのではないかと考えています。また、単に仕事をする場所ではなく、学生が勉強する、近所の方のおしゃべりの場所になるなど自由度の高い場所にしたいと思っています。

隊員情報



【隊員ミッション】

名張市街地を中心に、地域資源を活用したイベント等の企画・運営やまちなかの情報発信

【活動期間】

R3.4～ R6.3
(取材時:3年目)

協力隊になったきっかけ

東京でアニメグッズを企画制作する会社に勤務し、結婚し2人の子育てをしながら地方移住を考えていた際、県に協力隊について相談したところ、環境や交通アクセスの良い名張市が気に入り、応募しました。

隊員が紹介する 地域の魅力・おすすめスポット

● FLAT BASE(名張市元町)

旧市街地にある築100年を超える旧町家を改修し、コワーキングスペースやワークショップの開催もできるイベントスペースを設けています。地元の人でも周りの人もふらっと立ち寄ることのできる、地域と人の新たな出会いの場所を目指しています。



活動内容

- 歴史的な町並みが残る旧市街地での活動をSNSなどで発信

Instagramを通じて、まちの見どころを取材し、情報発信しています。



- 様々な広報媒体を通じた名張の情報発信

FM名張において、市民によるゲストトーク番組「名張れ幸太郎」のプロデュースや、市広報紙などを活用し、名張の魅力を発信しています。



- 地域の祭りやイベントの企画・運営

伊賀忍者を描いたテレビアニメの放送開始に合わせ、「隠(なばり)街道市」で先行上映会や原画展を開催したり、江戸川乱歩作家デビュー100周年を記念したワークショップを開催したり、地域の祭りやイベントをリニューアルなどして魅力的なものにしています。



今後の抱負・目標

アニメグッズを企画制作する会社に勤めていた経験などを、イベントの企画や広報などで生かすことができました。

退任後は、横振りミシンを用いた刺繍制作などの活動を充実させていきたいと考えています。

隊員情報



【隊員ミッション】

- ・地域ビジネス創設のサポート
- ・観光を軸とした赤目地域の活性化

【活動期間】

R4.10～ R7.9
(取材時:2年目)

協力隊になったきっかけ

東京の大学で観光などを学んでいたものの、卒業後は東京の化粧品メーカーに就職。しかし、「観光関係の仕事に就きたい」との思いが忘れられず、SDGsを絡めた観光を名張市が掲げていたこともあり、名張市の協力隊に応募しました。

隊員が紹介する 地域の魅力・おすすめスポット

● 赤目四十八滝(名張市赤目町)

滝川の清らかな流れと深い森がつくる深山幽谷。滝をつなぐ約3.3Kmの回遊路は遊歩道となっていて、桜、新緑、紅葉と四季折々の鮮やかな風景の中、滝を望むことができます。



活動内容

● 地域ビジネスの創設サポート

竹を活用した新たな地域ブランド商品の創造として、4年目を迎えた「竹灯り」そのものを販売することや、メンマを開発中。SDGsの観点から地域活動が継続できるための資金確保を目指しています。



● 観光体験プログラム等の企画・運営

竹を活用したワークショップなど、体験型エコツアーの企画及び運営を担っています。また、フィリピンの旅行会社に対し、東奈良名張エリアの体験ツアー商品を作り、セールスを行っています。

● 空き店舗を活用したカフェ「忍法赤目プリン」の開業

観光庁の補助金を活用し、赤目四十八滝手前にある空き店舗を改修し、令和5年8月にカフェをオープンしました。5種類のプリンや3種類の自家製ジュースなどを販売し、市内や近隣で生産された食材を活用しています。



今後の抱負・目標

赤目四十八滝の竹灯りが通年で楽しんでもらえるような商品開発を目指していきたいと考えています。また、赤目四十八滝付近だけでなく、駅周辺の住民も交えた話し合いの場を設けていきたいと思っています。

隊員情報



【隊員ミッション】
伊賀地域の資源を生かした
旅行商品等の観光コンテ
ンツ造成とその販売

【活動期間】
R5.6～ R8.6
(取材時:1年目)

活動内容

● 観光旅行商品の造成

店舗や事業所を訪問し、旅行商品を企画するとともに、それぞれの観光施設の課題を整理してつなぎ合わせていきます。

● 伊賀の総合情報サイト「伊賀イド」のSNS発信

InstagramやFacebookを活用し、外部の目線で自ら体験しながら、伊賀の観光情報を発信しています。

● 英語の翻訳

得意な語学を生かして、「伊賀イド」に掲載する情報の英語翻訳などを行っています。

協力隊になったきっかけ

オーストラリアへの語学留学からの帰国に際し、観光関係の仕事を探していたところ、伊賀市で協力隊の募集があることを知りました。歴史好きで忍者にも興味があることや、伊賀市が日本の地理的中心地に位置している利点なども考慮し、応募しました。

隊員が紹介する 地域の魅力・おすすめスポット

● 伊賀忍者発祥の伝説が残る日本遺産「藤原千方窟」(伊賀市高尾)

平安時代に伊勢・伊賀国を治めた藤原千方が謀反の嫌疑をかけられ、討伐されることになった際、四鬼とともに立てこもったとされる場所です。約1,500万年前に紀伊半島のカルデラ火山から流れ出た溶岩が固まった柱状節理を見ることができます。



今後の抱負・目標

伊賀には忍者以外にも松尾芭蕉や城下町など観光コンテンツが沢山あるため、今後どのようにバランス良く発信していくかを考えています。まずは自らが学び、吸収してから、海外の人にもしっかり伝えられるよう努めていきたいです。

隊員情報



【隊員ミッション】

マーケティングデータの分析・整理及びそこから課題抽出、観光振興施策の企画立案のサポートを行う

【活動期間】

R5.11～ R8.10
(取材時:1年目)

活動内容

● 観光データマーケティングデータの分析・整理

伊賀上野DMOが令和元年から実施している来訪者アンケートの分析・整理を行っています。

今後は、公開されている観光関連データを整理し、全国との比較を行うなど、地域の特性や傾向を明らかにしていく予定です。

● 観光振興施策の企画立案

観光データの分析・整理を行う中で浮かんでくるアイデアなどを、観光商品として提案していきます。



(白藤滝)

協力隊になったきっかけ

学生時代から海外(カンボジア)で滞在し、地域それぞれの良さを発見し、観光に関する仕事に就きたいと考えていたところ、一番思い入れのある地元で観光DMOでの協力隊募集があることを知り、応募しました。

隊員が紹介する 地域の魅力・おすすめスポット

● 白藤滝(伊賀市山畑)

霊山の中腹、木津川の支流・滝川の上流にあり、落差は約15m、近くには不動明王が祀られています。

自然豊かでリラックスできる空間で、藤の花と紅葉の時期が特に美しいです。

今後の抱負・目標

DMOの役割として、観光データのプラットフォームを形成し、観光関連事業者の誰もが参照できるようにしたいと考えています。

さらに、観光コンテンツを自身が主導して作れるようにしたい。

また、空き家の活用やUIターンを促進するため、ITをはじめとする外部人材の誘致やそのための情報発信を進めたいと思います。

隊員情報



【隊員ミッション】

伊勢麻の継承や啓発を行う

【活動期間】

R5.4～ R8.3
(取材時:1年目)

活動内容

● 伊勢麻や明和町の情報発信

instagramにおいて、麻績節気(おうみせっき)というアカウントで、明和町の国指定史跡・斎宮跡の中にある麻畑の成長日記及び神事や関連イベント、明和町の見所などを紹介しています。



● 伊勢麻の普及・啓発のためのワークショップの運営

「天津菅麻プロジェクト」が主催する、伊勢麻の知識の普及・啓発を目的としたワークショップの運営を担っています。

プロジェクトに参画する明和観光商社と連携し、取組を進めています。

※天津菅麻(あまつすがそ)プロジェクト…町内で麻を生産するとともに、麻に関する歴史文化の継承、農業の確立、麻産業の振興を目指すもの



協力隊になったきっかけ

明和町内でアルバイトをしていた時に町の協力隊と関わる機会があり、「協力隊をやりたい」との思いが芽生え、故郷と三重県とで協力隊の募集を探したところ、条件がマッチしたため、応募しました。

隊員が紹介する 地域の魅力・おすすめスポット

● 竹神社(明和町斎宮)

電子御朱印や限定御朱印を発行しているほか、手水舎は地元の氏子が花で飾り付けを行っています。

土日社務所が開く際には、参拝者や地域住民との交流ができることも魅力です。



今後の抱負・目標

今後、今携わっているワークショップとは別に、自身で地域の方向けに、子ども目線で開催できるようになりたいと思っています。

また、伊勢麻でヒンメリという飾り物を作り、各地のヒンメリ作家を集めた展示会を、空き家や神社を活用して実施したいと考えています。

隊員情報



【隊員ミッション】

観光による地域振興

【活動期間】

R3.4～ R6.1
(取材時:3年目)

協力隊になったきっかけ

大学院在籍時に勉強した地域振興の分野に興味を持ち、この分野で関わられる仕事に就きたいと考えている中、既に地域おこし協力隊として活動している友人をきっかけに、協力隊を知りました。

数多くの協力隊の募集の中でも、観光資源がない状態から新たに観光資源を創出し、PRするというミッションに興味を持ち、そして他のミッションに比べて、自分の関わりしろが大きいことがよいと思い、応募しました。

隊員が紹介する 地域の魅力・おすすめスポット

● 橋の上から見た七里御浜

七里御浜は、砂利ビーチであり、波が来ると、ビー玉が転がっているような音が聞こえます。景色を眺めながら、この音を聞くと、とても穏やかな気持ちになれます！



活動内容

● 魅力発信業務(1年目)

地元のみかん農家などへのインタビュー動画の撮影補助や、観光情報を掲載するページの作成などを通して、観光サイトの制作に携わる。

また、観光案内所である七里御浜TIC(ツーリストインフォメーションセンター)にて、御浜町を訪れた観光客に観光案内を実施。七里御浜TICのカフェのメニュー開発にも携わる。



● 地域の資源調査(2年目、3年目)

東紀州地域の観光資源や、今後観光資源として活用できそうなものの調査や、地域で伝統的なことや面白いことに取り組みされている方から話を伺う。この調査を通じて、人も大切な資源であることを実感。



● ツアー作成・販売(3年目)

熊野古道でクマノザクラを見に行こうというツアー(悪天候で中止)や、夏に瀨峡で絵を描きながら自然を感じるツアーを実施。

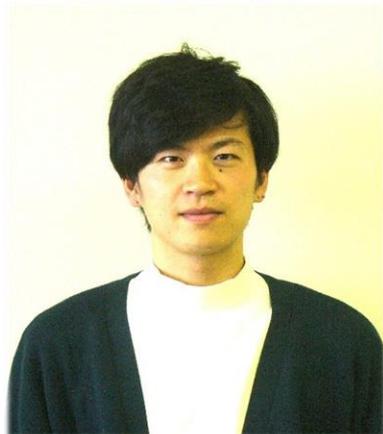
また、川舟で御浜町に残る原風景を楽しむツアーを検討中。



今後の抱負・目標

今後も地域の資源調査や、観光・地域づくりに取り組む方との交流を継続していき、目玉となるツアーの開発していきたいです。また、御浜町の良さをどうすればより多くの人に伝えることができるかを考えていきたいと思っています。

隊員情報



【隊員ミッション】

- ・有害鳥獣の捕獲活動を行い、利活用や加工品製作のノウハウを学ぶ
- ・「狩猟ビジネス」の検討

【活動期間】

R5.10～ R8.9
(取材時:1年目)

活動内容

● 有害鳥獣捕獲活動

猟師が不足している地域において、有害鳥獣の捕獲活動を行っています。また、認定鳥獣捕獲等事業者の捕獲事業へも参加しています。



● 利活用や加工品製作のノウハウの習得

受け入れ可能な獣肉処理施設(奈良県宇陀市)での研修などにより、ノウハウの習得に励んでいます。



● 関係機関・関係者と取り組む「狩猟ビジネス」の実現に向けた検討

生肉加工品の販売や小中学生を対象とした狩猟教育等に向けて検討を進めています。



協力隊になったきっかけ

マンガや大学での研究をきっかけに狩猟への興味を持ち、令和4年夏には宇陀・名張地域鳥獣害防止広域対策協議会の狩猟者育成プログラムを受講し、同年11月には狩猟免許も取得。その際、名張市で狩猟に関する協力隊の募集があることを知り、応募しました。

隊員が紹介する 地域の魅力・おすすめスポット

● 宇流富志禰(うるふしね)神社(名張市平尾)

主祭神の宇奈根命(うなねのみこと)は水、穀物の神。神社の名も“潤うふし水”という語源を元にできたと伝えられています。

10月27～28日の秋季例祭は、獅子舞や町中を練り歩く神輿など、盛大に行われる。



今後の抱負・目標

宇陀市のジビエ処理施設と連携した取組を進め、ジビエをビジネスとして確立できるよう努めていきたいです。

3年後には、ジビエの販売や狩猟体験ツアーなどを実現したいと考えています。

隊員情報



【隊員ミッション】

農産物の生産・商品企画・農産物の販売

【活動期間】

R4.10～ R7.10
(取材時:2年目)

協力隊になったきっかけ

親しい友人が田舎に移住したのをきっかけに田舎暮らしに興味を持ち、田舎での仕事を模索している中で、熊野市のHPなどで、熊野市の地域おこし協力隊について知り、両親が熊野市出身で馴染みがあったことや、コロナで今後の暮らしを再度見つめ直すいい機会だと感じたことから、応募させていただきました。

隊員が紹介する 地域の魅力・おすすめスポット

● 紀州鉾山跡(熊野市紀和町板屋)

生活を営んでいた痕跡や、かつての様子を想像すると、とても神秘さを感じます。また、祖父が昔紀州鉾山で働いており、家族で一時期この地域で生活していたと聞いています。会ったことのない祖父や以前に聞いた当時の話を基に、当時の様子を想像しながら巡ることがとても楽しいです。



活動内容

● 農産物の生産(ハラペーニョ等)

熊野市金山にあるハウスで、ハラペーニョ、ピーマン、パプリカなどを栽培。特に、農薬を使わない有機栽培に力を入れて取り組んでいます。

また、くまの農業振興公社が保有している作物栽培用のハウスの一部を貸していただけなので、アボカドや根菜関係、スーパーフードなど新たな農産物の栽培に取り組むたいと考えています。



● 市取組みの広報活動

デザイン関係の仕事をしていた経験を活かして、くまの農業振興公社が企画しているイベントである、唐辛子コンテストのチラシのデザインを作成しました。

今後もくまの農業振興公社が企画するイベントの広報活動(チラシ作成など)を行っていく予定です。



今後の抱負・目標

地域おこし協力隊着任後に農業に取り組む中で、身内の病気がきっかけで、安心して食べられる無農薬の農産物を栽培したいと思ったことから、有機栽培に力を入れて取り組んでいきたいです。

また、任期終了後には農業だけでなく、自分が栽培した農産物を提供したり、お土産として販売する特色を持った民泊のような総合的なサービスを熊野市で展開したいと思っています。

隊員情報



【隊員ミッション】

- ・イチゴ「レッドパール」の栽培、
 隼人芋の栽培
- ・SNSを活用し、地域の魅力や
 農作業の様子を情報発信

【活動期間】

R4.11～ R7.10
(取材時:2年目)

活動内容

● イチゴ「レッドパール」、隼人芋の栽培、販売

イチゴは通常10年ほどで品種が変わることが多い中、レッドパールは約30年間品種が変わっておらず、長い間人々に愛されており、志摩市の特産品となっています。

現在、JAの育種苗施設において、イチゴ栽培について様々な知識・技術を学んでいます。

また、病原菌のない隼人芋(志摩市の特産・きんこ芋の原料)の苗を栽培し、農家へ販売しています。



協力隊になったきっかけ

父の仕事の関係で、幼い頃から志摩市で余暇を過ごし、多くの人との出会いや思い出があり、第2の故郷との想いがありました。

また、何かを作って提供し、人に喜んでもらいたい、中でも農業・イチゴの栽培を志摩市でしたいと思い、市役所へ相談したところ、ちょうど協力隊の募集があり、応募しました。

隊員が紹介する

地域の魅力・おすすめスポット

● 国府白浜(志摩市阿児町国府)

美しい景色が広がる有名なサーフスポットで、年間を通じて多くのサーファーが訪れます。

私はよく散歩をしに行くのですが、せっかくサーフスポットの近くに住んでいますので、いつかはサーフィンにもチャレンジしてみたいと思っています。



● 情報発信・研修会への参加

イチゴの栽培の様子をSNS(instagram等)で発信しています。

この他、イチゴ農家の若手研修会へ参加し、切磋琢磨しています。

今後の抱負・目標

1年1年の季節や気候等の変化を見ながら、イチゴ栽培について様々な知識・技術を身につけていきたいと思っています。

将来的には、「レッドパール」を栽培するイチゴ農家として、出荷だけでなく、志摩市における冬の観光の一つとなれるよう、イチゴの収穫体験や農業に気軽に触れ合える農園をつくっていききたいと考えています。

隊員情報



【隊員ミッション】

限界集落における地域農業の再生事業(道行竈日本酒プロジェクト)。

【活動期間】

R2.12～ R5.11
(取材時:3年目)

協力隊になったきっかけ

元同僚が南伊勢町に移住したことがきっかけで、南伊勢町を訪問。その際、限界集落の道行竈(みちゆくがま)で日本酒プロジェクトを行うチーム道行竈の話を知り、地域おこし協力隊に興味を持ち、ちょうどコロナ禍で環境を変えたいと思っていたため、協力隊に応募しました。

隊員が紹介する地域の魅力・おすすめスポット

●道行竈の田園風景

海と山に囲まれた道行竈ならではの景色。写真は穂がつく前ですが、実り始めると一面黄金色でとてもきれいです。



活動内容

● チーム道行竈での活動

チーム道行竈の一員となり、耕作放棄地を復田し、酒米「神の穂」、コシヒカリ「道行竈のお米」を栽培しています。

また、その酒米を使って伊賀市の若戎酒造株式会社で醸造した日本酒「純米吟醸道行竈」、「道行竈のお米」の販売を事務所兼販売所にて担当しているほか、地元の飲食店や郵便局内での無人販売、ネット販売もチームの方と一緒に携わっています。



● 耕作放棄地での農業

新たにニンニクの栽培を始め、町内外のイベントにて、チーム道行竈としてお米・日本酒と共にニンニクの試験販売を行いながら、更なる耕作放棄地の活用に向けて活動しています。

協力隊就任前は農業の経験がなく、南伊勢町に移住後、興味を持ち始めました。



今後の抱負・目標

町に定住し、町内での仕事で生計を立てながら、米作りを中心とした農業を継続していく予定です。

引き続き、チーム道行竈に在籍しつつ、今後は個人に任された農地だけでなく、耕地面積も徐々に拡大していきたいと考えています。

隊員情報



【隊員ミッション】

企業誘致・立地による
まちの活性化

【活動期間】

R3.7～ R6.6
(取材時:3年目)

協力隊になったきっかけ

定年退職の後は、生まれ故郷の明和町近辺で仕事をしたいと考えていたところ、良いタイミングで明和町の協力隊の募集があり、キャリアが生かせそうだったため、応募しました。

隊員が紹介する 地域の魅力・おすすめスポット

● 梅雨入り前の田園

梅雨入り前(6月)の田園風景が良い。

田んぼにパラソル、机、椅子を置き、これを都市部の企業経営者に対してワーケーションの場として提案しています。



活動内容

● 三重明和インキュベーションセンターの活用促進

サテライトオフィス兼コワーキングスペースである同センターの稼働率を向上させようと、様々取り組んでいます。

「企業誘致」はなかなかハードルが高いため、現在は「事業誘致」を志向しています。例えば、起業を志望する大学生に対して、起業に関する勉強会を実施したり、その学生と都市部等の経営者をマッチングしたりしています。



● 天津菅麻(あまつすがそ)プロジェクトとの連携

麻産業の振興を目指し、産官学で取り組むプロジェクトの一環で、令和5年4月から伊勢麻の栽培が始まっています。

今後、これに関係して第1次産業・2次産業に携わる農家、事業者、就労者などが増えてくると思われるため、その対応にも携わっていきたいと考えています。

今後の抱負・目標

大学生に対する勉強会について、任期終了のタイミングでレビューを行いたいと思っています。行く行くはこの勉強会が、輩出された起業家が誇りに思ってくれるような創業塾になってほしいと願っています。

隊員情報



【隊員ミッション】
伝統技術(擬革紙:三重県指定伝統工芸品)の継承・啓発

【活動期間】

R4.4～ R7.3
(取材時:2年目)

協力隊になったきっかけ

前職からの転職を考え、芸術系大学で学んだことを生かせる求人を探していたところ、ちょうど明和町協力隊の募集があり、応募しました。

隊員が紹介する 地域の魅力・おすすめスポット

- まちかど博物館 三忠(さんちゆう)
(明和町新茶屋)

擬革紙の発祥地であり、現在も歴史的な展示物を数多く所有・展示しています。

伊勢街道沿いにあり、街道の風景と合わせて見ていただくことをおすすめします。



活動内容

● 擬革紙の技術習得

革の風合いを紙で表現した擬革紙は、江戸時代に考案され、これを用いた煙草入れなどは、伊勢神宮への参詣客のお土産として、人気を博しました。

任期1年目においては、主に工房での技術の習得に励みました。初見だとすぐできそうな気がしますが、習熟するにつれ各工程の難しさに気付いてくるような奥深さがあります。



● 擬革紙の啓発

2年目以降は、技術習得に加えて啓発にも注力しています。

町内にある旧修正小学校の校舎において、月に1回ほど、子どもでも手軽に体験できるワークショップを開催しています。



今後の抱負・目標

任期終了後も明和町に残り、引き続き、擬革紙に携わっていきたいと考えています。

隊員情報



【隊員ミッション】

伝統工芸(擬革紙)の技術継承及び魅力発信

【活動期間】

R5.10～ R8.9
(取材時:1年目)

協力隊になったきっかけ

販売員の仕事をしていたもの、過去にカバンづくりを学ぶ専門学校に2年間通っており、モノづくりに携わりたい思いがありました。

以前より協力隊制度は知っており、自身に合った地域やミッションを探していたところ、玉城町の協力隊募集記事を見つけ、実際に町に来てみると、とても過ごしやすかったため、応募を決意しました。

隊員が紹介する 地域の魅力・おすすめスポット

- 田丸城跡からの景色
(玉城町田丸字城郭)



田丸城跡は絶景で、玉城町の皆さんのいちばんのお気に入りの場所です。

JR参宮線田丸駅からも徒歩で気軽に観光ができるおすすめスポットです。

活動内容

● 擬革紙の技術の継承

革の風合いを和紙で表現した擬革紙は、江戸時代に考案され、これを用いた煙草入れなどは、伊勢神宮への参詣客のお土産として、人気を博しました。

この擬革紙を再び産業として復興すべく活動する「参宮ブランド擬革紙の会」の一員として、技術の継承に励んでいます。



● 擬革紙の魅力の発信

擬革紙と町の魅力をSNSを活用して情報発信しています。

玉城町観光協会の一員にもなり、JR田丸駅舎建て替えで観光協会が駅舎に移ったため、新駅舎の交流施設も利用して擬革紙のPRなどを行っていく予定です。



♡ 22 👁 1 📌

今後の抱負・目標

活動を始めたばかりですので、まずは技術、知識の習得をしたいと思います。

擬革紙そのものを作り販売することに加えて、擬革紙を加工し作品も作っていきたいと考えています。

大台町地域おこし協力隊 張 暁玲

自然・環境保全

隊員情報



【隊員ミッション】
環境教育学習スタッフとして
技術を習得し、環境教育学
習プログラムの企画・実践を
行う

【活動期間】
R4.4～ R7.3
(取材時:2年目)

活動内容

● 放課後のびのびクラブ

町内の小学生を対象に、下校時間の早い水曜日に自然を体験する機会を設けています。

山に入って材料を集めて工作をしたり、町名物のないしょ餅を作ったり、川遊びをしたり、火起こし体験をしたり、と様々な体験活動を行っています。



● 熊野古道伊勢路活用ツアーの実証

自身が配属されている大杉谷自然学校と東紀州地域振興公社が、観光庁の「ロングストーリー造成事業」に共同で応募し、補助事業として採択されました。

インバウンド客の長期滞在需要を喚起するツアーを作るため、熊野古道伊勢路を12日間かけて歩くモニターツアーが実施され、そこでスルーガイドを担当しました。

各地域のローカルガイドと組んで海外旅行者等に英語で対応しました。



協力隊になったきっかけ

高校時代に、ESD(持続可能な開発のための教育)をテーマとした学生フォーラムの運営に携わったことを契機に、大学院でも環境教育を専攻していたこともあり、現場経験が積める職場を探していたところ、大杉谷自然学校で活動する大台町協力隊の募集を知りました。

隊員が紹介する 地域の魅力・おすすめスポット

● 久豆地区の紅葉・川の風景 (大台町久豆)

清流・宮川沿いに色鮮やかな紅葉が並ぶ様子は絶景です。



今後の抱負・目標

引き続きこの地域で、人と人、人と社会や自然を繋げる役割を担いたいと思っています。この思いは、大杉谷自然学校での仕事やこの地域での生活を経験して抱くようになりました。

隊員情報



【隊員ミッション】

ソフトボールによる町おこし

【活動期間】

R4.4～ R7.3
(取材時:2年目)

協力隊になったきっかけ

学生時代から続けていたソフトボールに関われる仕事を探している中で、高校のソフトボール部の顧問の先生から、熊野市の地域おこし協力隊を紹介していただきました。大会や合宿で熊野市を何度も訪れた経験があり馴染みがあったことや、隊員ミッションに興味を持ったことから、応募しました。

隊員が紹介する 地域の魅力・おすすめスポット

● 磯崎の夜の港

磯崎の夜の港は、とても星がきれいで、心地よい波音を聞くことができます。ここに来ると、無心になることができ、リラックス出来ます。特に、晴れていて星がきれいに見える日は行きたくくなります！



活動内容

● ソフトボール普及活動

令和5年度は、市内3か所の学童を対象に、体験活動を全17回実施予定(令和4年度:全14回、延べ357人参加)。

また、市民スポーツ大会で、45歳から70歳を対象にしたシニア大会を年2回実施。



● ソフトボールを通じた集客活動

大会の企画運営を年13回実施。また、ソフトボール協会などと協力しながら、合宿誘致を行っており、毎年6件前後の合宿を受け入れており、延べ宿泊数は約2万泊を記録。



● ソフトボールチームの設立

令和5年4月に小学生女子チームのチーム登録を実施。今後、ソフトボールの普及活動などを通じて、部員(R5.11現在 11人)を増やし、チームの強化を図る予定。



今後の抱負・目標

今後、中学生の女子チームを設立したいと考えています。現在、中学生チームや中学校にソフトボール部がないため、小学生女子チームに所属している選手が、ソフトボールを続けられる環境を作りたいです。

また、現段階で具体的な案はないのですが、将来的に、ソフトボールを通じて、地域のつながりが広がるような事業や取り組みを行いたいと思っています。

隊員情報



【隊員ミッション】

障がい者地域活動推進事業支援(アートを活用した障がい者福祉の向上)

【活動期間】

R2.10～R5.9
(取材時:3年目)

協力隊になったきっかけ

前任の協力隊員が、桐林館を活用した地域活性化に取り組んでおり、イベント等の手伝いやマルシェにおける「福祉とアート」をコンセプトにした出店など、以前から関わりがありました。

前任とバトンタッチする形で協力隊となり、カフェの運営を引き継ぐとともに、新たに「筆談カフェ」を展開することになりました。

隊員が紹介する地域の魅力・おすすめスポット

● 桐林館(いなべ市北勢町阿下喜)

昭和12年3月に阿下喜町立尋常小学校校舎として建設。昭和56年の小学校の新校舎への移転に伴い、敷地北側に移築保存。

平成26年には、いなべ市で初めての国登録有形文化財となりました。



活動内容

● 桐林館喫茶室(筆談カフェ)の運営

桐林館において、筆談・ジェスチャー・手話などで会話する、音声オフの「筆談カフェ」を運営しています。障がいのある人にも、そうでない人にも、交流の場や静かに過ごせる場所として利用されています。

毎月第3金曜日には、「キナリマーケット」を開催し、物販だけでなく、日々のよろず相談のような場となっています。

● コミュニティナースの活動

看護師としての経験もあり、「人とつながり、まちを元気にする」コミュニティナースとしても活動しています。

桐林館において、アートの活動をしている障がい者や子どもたちの作品を見てもらえる場所を作っています。

また、作品をコーヒーパッケージなどの商品にして販売しています。



今後の抱負・目標

筆談カフェが、耳が聞こえない人や話すことが苦手な人に「こういう場所があってよかった」と思ってもらえる場所となるよう、行政とも力を合わせて取組を継続していきたいです。

また、ダイバーシティを体現する場所として利用してもらい、声なくてもコミュニケーションができることを知ってもらいたいです。